

優秀賞

将来「大人」になっている自分へ

山形県東根市立神町中学校

2年 櫻井 暢音

これを書いている私は今、中学2年生の夏休み中でその夏休みもまもなく終わる。将来何者になるのか、なりたいのか、考えなければならない時だと周りに言われるし、もちろん自分でも思っている。将来っていつからのことを指しているのか、そもそも大人って言われるのは20歳になったらなのか？それとも18歳なのか？18歳だとしたらもうあと5年後ということになる。あと5年で私は、大人になっているのだろうか。

今の自分は、今現在のことを考えるだけで精いっぱいだ。部活は3年生が抜けて2年生中心の新体制でスタートするところだし、勉強は夏休み前にあった期末テストの点数を気にしながらこれから志望高校を決めないといけない。明日友達と一緒に行くお祭りに着ていく服もまだ決まっていない……。

「大人になった私」は、毎日どんなことを考えているのだろう。仕事のこと、家族のことや友達のこと、お給料は何に使おうとか、今日昼ご飯は何を食べようとか。今みたいに宿題のことやテストのことはもう考えなくていいのかもしれないけれど、毎日楽しいことだけ考えていけるわけではないだろうし、やはり結局そこから先のことを考えなくてはいけない日々だと思う。そのように考えていくと将来ってすごく先の全く見えない未来のことだと何となく思ってきたけれど、ほんとはもっと身近なところにあることではないかと思うようになった。例えば、明日自分が何をするかを決めて行動すること（英語のワークを終わらせようとか、明後日は部活だから明日中に準備しておいたほうがいいかもしれないとか、何時に起きて何時に出発しようとか）が、積み重なってその先の自分につながっていくのではないだろうか。志望校やなりたい職業を考えて終わりではなくて、そこまでにはどんなことをしたらいいのかという一歩を考えることも必要なのだと思った。そしてさらに高校に行ったら終わりでもなくて、職業に就けたらそこで終わりでもない。どんな人になっても、いくつになってもやっぱりその先どうしたいのかということを考えない日なんて来ないのではないかと思う。

今、私が目指している職業は看護師だ。学校や私の周りでは、大分落ち着いたような雰囲気になったけれど、新型コロナウイルス感染症は本当に怖かった。この大変だった時期を学校や家の生活の中でどんなことを感じながら過ごしてきたかは忘れないでいたいと思う。知らない人たちに伝えていったり、

私よりももっと大変な経験をしてきた患者さんや病院で働いていたさまざまな職業の人たちに話を聞いて、感じてきたことなどを聞いてみたい。きっとこれから新しい病気が出てきたり、今回のような世界的大流行するウイルス感染症に巻き込まれることだってあるかもしれないのではないかと思う。そんな時には、立ち向かおうとすることができる人でいたい。最初からこわい、できない、関係ない、嫌だと逃げ出さず、あきらめず、今自分にできることは何かということを考えられるような看護師になりたい。そして考えたことを何かひとつでも行動へつなげることができるようになれたらと思う。今日できなかったとしても、明日は何かできることがないか前向きに考えられる人でありたい。

今の自分が5年後か、それ以上先の「大人」になっている自分へ伝えられること・伝えたいことは、何歳になってもどんな仕事に就いていても、どんな状況に置かれていたとしても、明日のこと・その先のことをいつも前向きに考えていてほしいということなのだと思う。今の自分だって先のことを考えるのはめんどくさいし、できるだけ先延ばしできたらなんて思っているくらいなのだから、何歳になったってきっとめんどくさいと思う日もあるだろう。そんな日は、中学2年生の時に書いたこの作文を思い出してその時の自分を奮立たせてほしい。今日のこの日もまた明日からの自分へつながる一歩にしていけるはずだと思う。